

仏教に基づく道德教育と人間形成

第七回：授業案の作成

同朋大学
岩瀬真寿美

- 道徳教材「二人の弟子」の学習指導案の一例について考えることができる。
- 道徳教材「二人の弟子」の学習指導案を工夫して作成することができる。

はじめに

- 中学校の道徳科の学習指導案作成の方法を確認
- 「特別な教科 道徳」の検定教科書
 - 小学校では2018（平成30）年度から
 - 中学校では2019（平成31）年度から
- 検定教科書の内容
 - 「教科書発行者においては、
 - ①これまで民間の発行者から刊行されてきた副読本や教育委員会等が作成した地域教材、「私たちの道徳」など文部科学省（文部省）が作成した教材など様々な教材のよさを生かすこと
 - ②例えば、家庭でも保護者が子供と一緒に活用できるなど、家庭や地域社会と連携した道徳教育にも資するものとなるよう、道徳科の教科書の著作・編集に当たることを期待する。」
 - ※教科用図書検定調査審議会「「特別の教科道徳」の教科書検定について（報告）」平成27年7月23日
- 『私たちの道徳』に掲載されている読み物資料「二人の弟子」を事例に、学習指導案作成のモデルを示す。
 - ※「私たちの道徳」の趣旨の理解を図り、より効果的に活用するための手引きである「『私たちの道徳』活用のための指導資料（中学校）」（文部科学省）

学習指導要領に基づく教材への留意と指導における配慮

- 「学習指導要領 第三章 特別の教科 道徳」「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の中の中学校での記述

「3 教材については、次の事項に留意するものとする。

- (1) 生徒の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。特に、生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする充実した教材の開発や活用を行うこと。」

学習指導要領に基づく教材への留意と指導における配慮

「(2) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。

- ア 生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
- イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。
- ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。」

学習指導要領に基づく教材への留意と指導における配慮

● 読み物資料「二人の弟子」

- 「感動を覚えたりする充実した教材」「悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができ」るもの。

● 指導の方法：「学習指導要領 第三章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の中の中学校での記述

「2 第2の内容の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (2) 生徒が自らの道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。また、発達の段階を考慮し、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとすることのよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢を大切にすること。」

学習指導要領に基づく教材への留意と指導における配慮

- 「人間としての弱さ」についての記述：中学校の道徳教育の内容項目D（22）
「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」
 - 2015（平成27）年の一部改正の新学習指導要領においては小学校第5学年及び第6学年に新たに追加：小学校の道徳教育の内容項目D（22）
「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること。」
 - ・ キーワード「よりよく生きる喜び」
 - ・ 教師も弱さをもつ一人の人間であり、それを克服する強さをもつべき人間である。
 - ・ 「教師が生徒と共に考える姿勢」を忘れてはならない。
- ※新たに加えられた理由について、「よりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化するために、また発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点から、小学校5・6年に新たに加えられたもの」と説明されている（永田繁雄編『平成28年版小学校学習指導要領の展開特別の教科道徳』明治図書、2016年

学習指導案の作成

- 「『私たちの道徳』 活用のための指導資料」
 - ・ 事例1 「智行のを中心にして、人間の醜さを克服する気高さについて考える展開」
 - ・ 事例2 「道信のを中心にして、人間の弱さを克服する強さについて考える展開」
- ※文部科学省 「『私たちの道徳』 活用のための指導資料（中学校）」
- 智行と道信の生き方を対比的に見る学習指導案を作成する
 - 「7 主題設定の理由」の「（1）ねらいとする価値」および「（2）生徒観」
 - ・ 「学習指導要領解説」を参照するとまとめやすい。
 - ・ 生徒に何を考えてほしいのかということ、特に発問を作成することからはじめると学習指導案はまとめやすい。

道徳科学習指導案

指導者 ○ ○ ○ ○ 印

- 1 日時 平成○○年○○月○○日 (○)
第○校時 (○○ : ○○ ~ ○○ : ○○)
- 2 場所 ○年○組教室
- 3 学年・組 第○学年○組 (男子○○名・女子○○名 計○○名)
- 4 主題名 よりよく生きる喜び〔内容項目D(22)〕
- 5 ねらい 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。
- 6 資料名 「二人の弟子」 (出典：『私たちの道徳 中学校』126-131頁)

7 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。欠点や弱点のない人間はいない。ありのままの人間は、決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。人間は総体として弱さを持っているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また気高い存在になり得るのである。「気高く生きようとする心」とは、自分の良心にしたがって人間性に外れずに生きようとする心である。良心とは、自己の行為や性格の善悪を自覚し、善を行うことを命じ、悪を退けることを求める心の動きである。また、人間として生きる喜びとは、自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛でもあり、崇高な人生をめざし、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。以上のような、よりよく生きる喜びを、中学生という時期に理解させることは大変重要である。

(2) 生徒観

中学校の段階では、入学して間もない時期には、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解できるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてずに、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりすることもある。学年が上がるにつれて、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなる。自分も含め、人は誰でも人間らしいよさを持っていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度が次第に育ってくる。

指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせたい。弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにしたい。

さらに、人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導をおこないたい。

この資料を読む生徒はおそらく、智行に自分を重ねてみたり、あるいは道信に重ねてみたりと、いずれも可能であろう。そして本山とは、物理的空間的な意味合いをはずしてみれば、自身の心を鍛えるところという意味合いをもつ。出奔した道信は欲望の赴くまま、欲望に翻弄されていたが、フキノトウに表された言わば良心を確認したとき、新たに人生を進む希望を持った。上人が帰郷した道信に「すぐ会おう」と考えた訳を、読み手は知ることはできない。しかし、そこにある心を考えてみることはできる。ある生徒はこう考えるかもしれない。「上人にとって、道信は、困った弟子であったこそ可愛い弟子であったのだ。」また別の生徒はこう考えるかもしれない。「上人は、道信の求道の心が高まっている間に自分と会うことが大事と考えたのだ。やる気を削げさせないために。すなわち、鉄は熱いうちに打てというように。」

上人が道信の手を取るという思わぬ展開があった後、智行が「そっとその場を離れた」訳も考えることができる題材となる。ある生徒はそこに「孤独感ゆえ、いてもたってもいられなくなった智行」を見るかもしれないし、また別の生徒はそこに「智行の怒り」を見出だすかもしれない。現代社会において、人が人を非難すること、人の欠点を見付けようとする、人を決して許さないという心、自分がいつも正しいという考えを持つことは稀ではない。資料では、これらの心が智行に表されている。一方で、上人が目指されるべき人の心として描かれている。

◎道信と智行の過去と現在についてまとめてみましょう。

(道信の過去)

- ・遊び暮らしが身に付いた
- ・金はない
- ・盗人みたいなこともやった
- ・まともな暮らしをしようとした矢先に妻を亡くした
- ・捨て鉢な気持ちにもなった

(道信の現在)

- ・過去の生き方への後悔
- ・寺に戻りたい

※ワークシートを用い、自分の考えをまとめさせる。

※発言を板書に示し、自分の考えを深めさせる。

・発言、ワークシートへの記述から、道信と智行の生き方の対比を理解し考えることができたかを評価する。

○フキノトウと白ゆりは、それぞれ何を表していると思いますか。

- ・フキノトウは道信の未来、白ゆりは上人の広い心。
- ・フキノトウも白ゆりも、良心。
- ・フキノトウは小さいながらも希望、白ゆりはずっと自分を見ていてくれる大きな力。

※発言を板書に示し、自分の考えを深めさせる。

- ・発言、ワークシートへの記述から、フキノトウと白ゆりが、それぞれ何を表しているか考えることができたかを評価する。

学習指導案の作成 展開後段

展開後段 (10分)	過去と現在の自分を内省し、グループで話し合う。 ○自分の生き方を変えたいと思ったときに誰かに助けられた経験はありますか。グループで話し合みましょう。 ・友達に謝ろうとしたときに、友達から声をかけてもらった。 ・立候補をしようか迷っていたときに、友達が推薦してくれた。	※ワークシートを用い、過去と現在の自分を内省させる。 ・発言、ワークシートへの記述から、人間として生きることの喜びに気づくことができたかを評価する。
終末 (5分)	教師の説話を聞く。	※十分に「よりよく生きる喜び」について考えてきた後なので、簡潔にまとめる。

二人の弟子

○人を許したことがありますか(どのようなことか)?

○なぜ上人は、帰郷した道信に「すぐ会おう」と考えたのでしょうか。

○上人が道信の手を取るといふ思わぬ展開があった後、なぜ智行は「そっとその場を離れた」のでしょうか。

◎道信と智行の過去と現在についてまとめてみましょう。

(道信の過去)

(道信の現在)

(智行の過去)

(智行の現在)

○フキノトウと白ゆりは、それぞれ何を表していると思いますか。

○自分の生き方を変えたいと思ったときに誰かに助けられた経験はありますか。

おわりに（道徳授業の評価）

- 道徳性が養われたか否かは1単位時間の指導だけでは判断できない
- 生徒の立場に立って、生徒を受容し尊重する共感的かつ生徒理解に基づく評価
- 生徒の学習状況を通して自らの指導を評価し更なる指導に生かしていく
- 道徳科の授業で生徒が伸びやかに自分の考え方や感じ方を述べたり、友達の考え方や感じ方を聞いたり、様々な表現ができたたりするのは、日々の学級経営と密接に関わっている

※文部科学省『中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編』2015年7月

- 人間理解と自己研鑽に励み、「教師が生徒と共に考える姿勢」をもつ
- 哲学や倫理学を学ぶ、日々の自身の経験を内省

終わり

